

「ふだん陸で考えている感覚とは、違う海からの視点で物事を考え、自分たちの暮らしや生き方を見つめ直す―」。

五十嵐さんが語った、

《海渡り》に込められた思いです。

多くの人々との対話によって

この作品が生まれました。

弁天様の話を聞いた日、

みんなで初めて弁天様と

まなざしを重ねたとき、

競舟チームの思いを聞き、

郷土料理を作るお母さんたちの

料理を食べたとき――。

たくさんの人との

つながりが深まる《海渡り》は

こんな時代だからこそ、

大切にしなければなりません。

これからも《海渡り》は

津奈木の「新しい海の日」として

地域内外の人々の手により、

伝統や地域を大切に思い、

守ってきた人々の願いと共に、

次の世代へと引き継がれて

いくことでしょう。

【特集】赤い糸で、海と陸をつなぐ（完）――

自然と人をつなぎ、過去と未来をつなぐ――

新たな伝統を紡ぎ、
未来を開いていく――